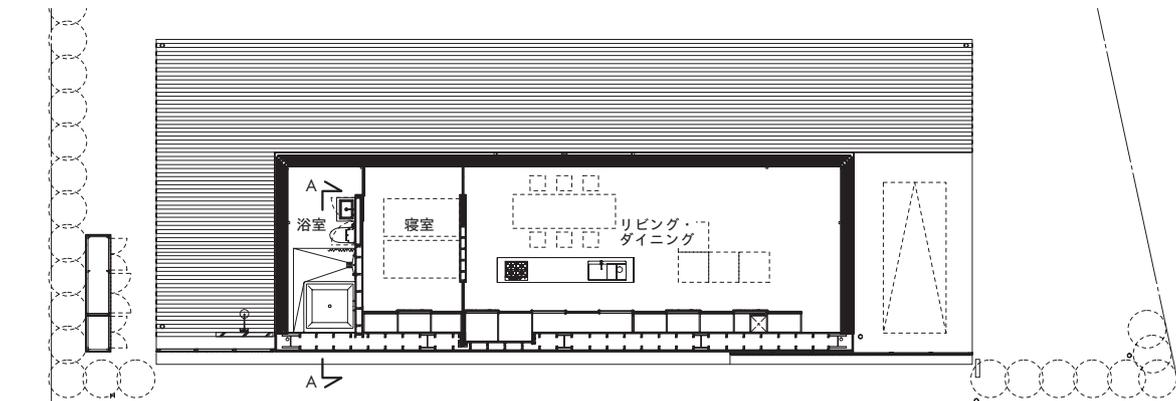
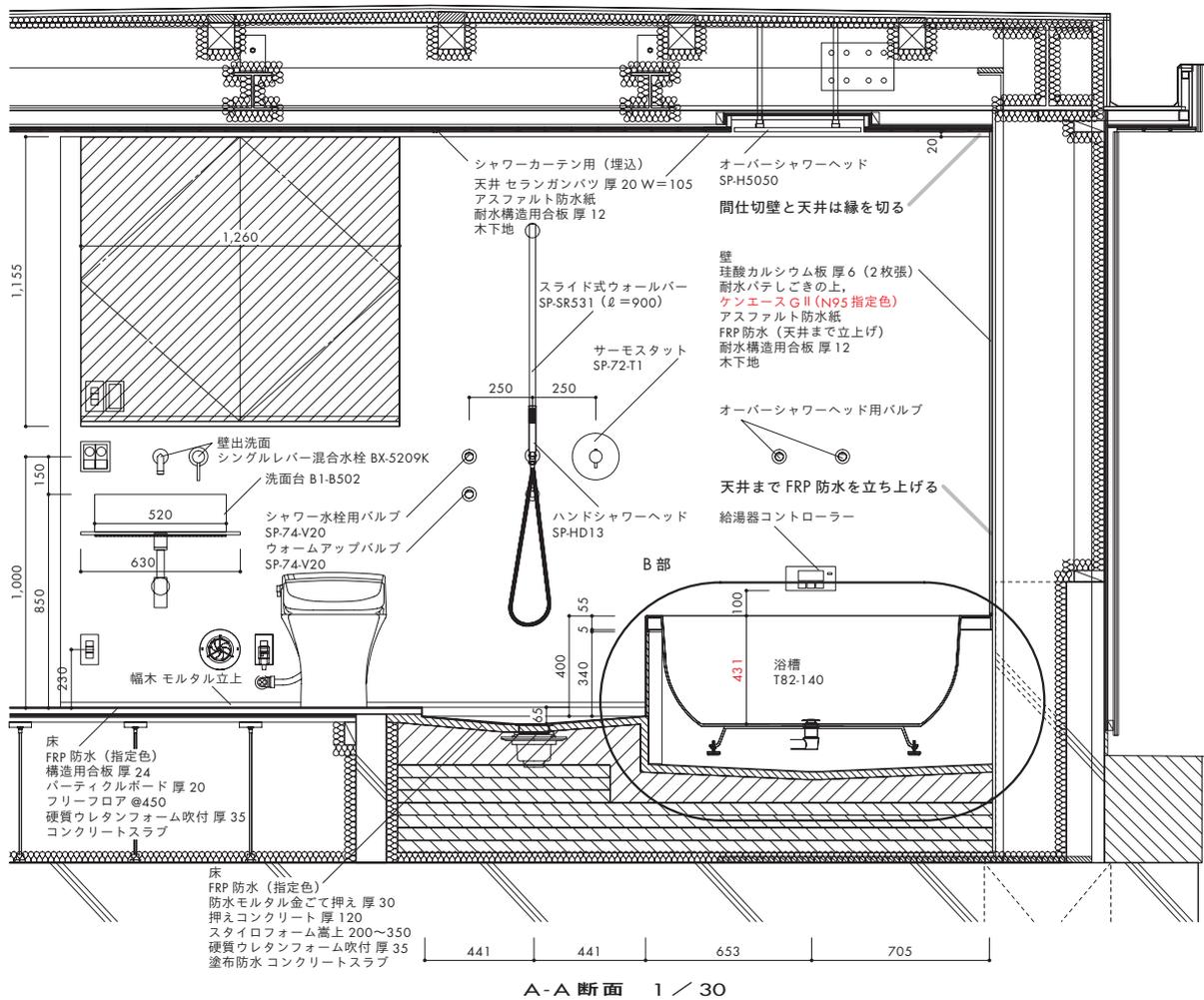




東京湾の最も風光明媚な角から臨む海辺の家。建物の前面には一切柱がなく海に向かって開いている。よってこの浴室も海に向かって開いている。窓面に取り付けたルーバーがプライバシーを保つ。浴槽の上にはレインシャワー、風呂場すぐ脇の軒下には海から帰ってきたときのための外部シャワーが備えられている。（手塚貴晴）



1階平面 1 / 200



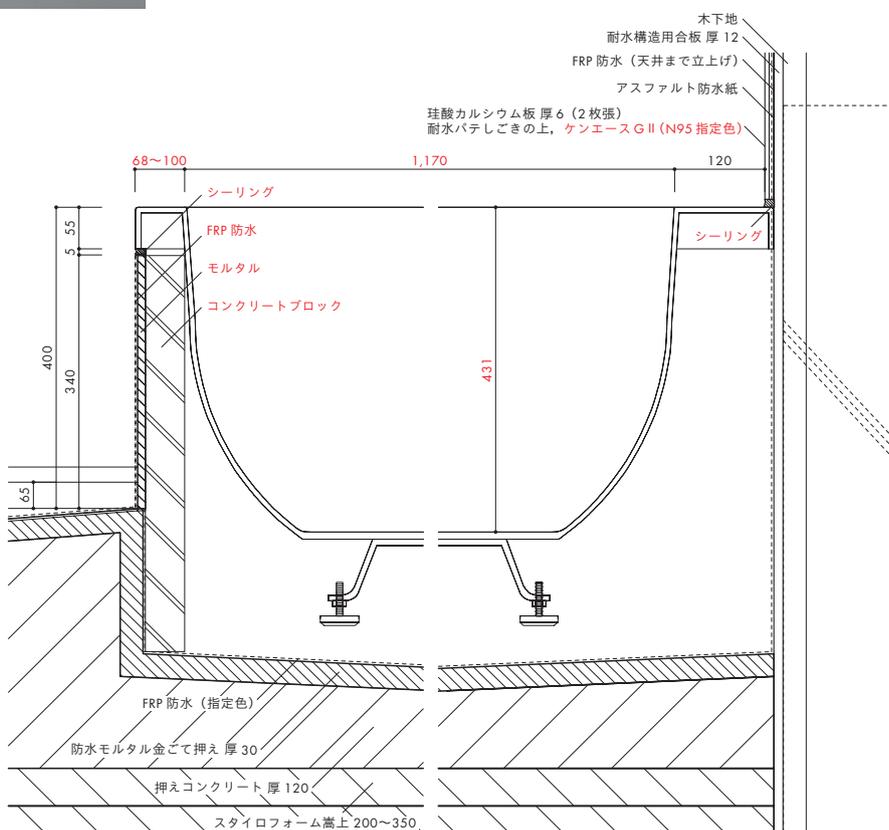
設計/手塚建築研究所 施工/網代工務店 構造・規模/鉄骨造・地上1階 防水種別/FRP防水 主な使用機器/浴槽:T82-140 (Bagni), オーバーシャワーヘッド:SP-H5050 (Bagni), ハンドシャワーヘッド:SP-HD13 (Bagni), シャワー水栓:CT2-72L-74-b (Bagni), スライド式ウォールバー:SP-SR531 [L=900] (Bagni), シャワー取出口:SP-SR79 (Bagni), シャワー水栓用バルブ:SP-74-V20 (Bagni), サーモスタット:SP-72-T1 (Bagni) 竣工/2013年1月所在/千葉県 撮影/畑 拓

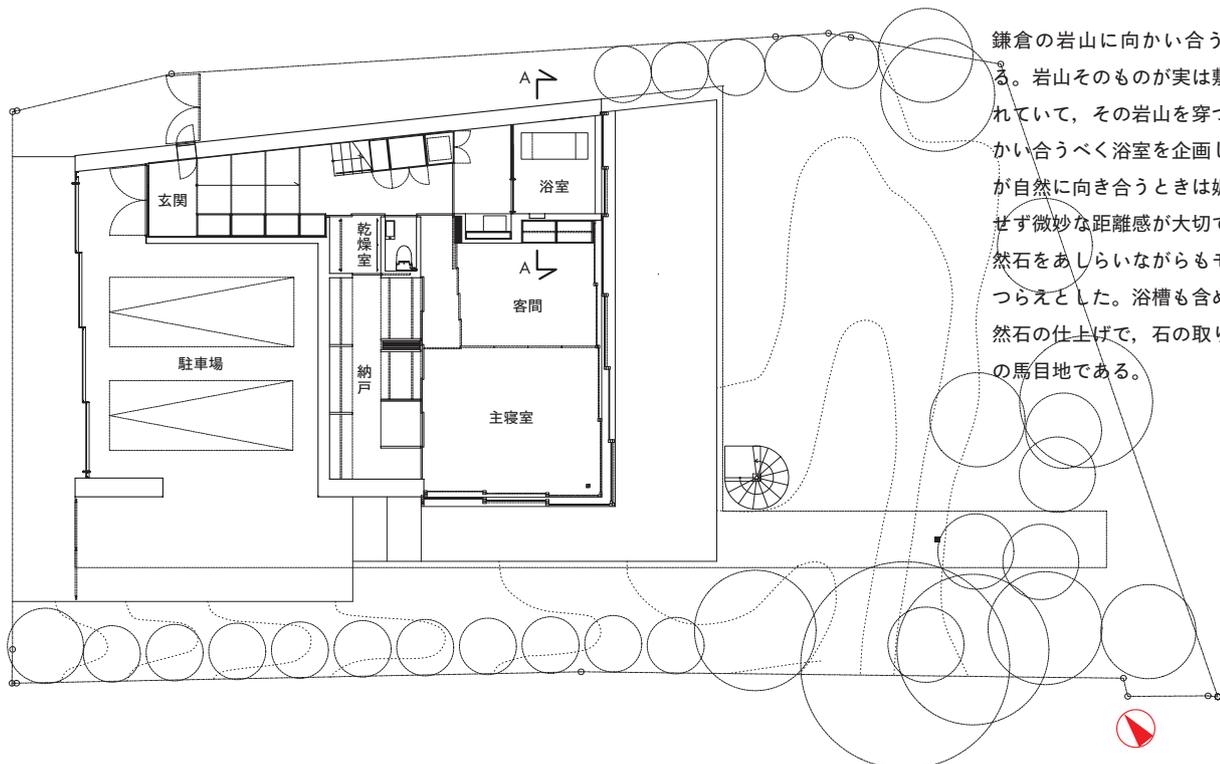
水が越えることを前提とした納まりが原則

中辻 床をFRP防水にしたときの段差が15mmというのは、事務所の決まりごとのような感じでしょうか。15mmより大きくなったりはしないですか？
手塚 海岸沿いで砂の問題があるなどの特殊事情がない限りやらないですね。自分の中で15mmというのは、人や車椅子などがちゃんと通れるギリギリの線なんです。

中辻 つまづきのことも考えてですか？
手塚 そうですね。それから、お風呂の中の緩勾配は60分の1に決めています。そういう勾配と15mmの立ち上がりをつくれれば、その中でいくらシャワーを浴びようがお湯が浴槽から溢れようが絶対そこから先にはこぼれないんです。

私の大学時代の恩師の話では、昔はコーヒーカップとソーサーには決まりがあって、カップ1杯のコーヒーをソーサーに流しても溢れないように





鎌倉の岩山に向かい合う住宅である。岩山そのものが実は敷地に含まれていて、その岩山を穿つ深緑に向かい合うべく浴室を企画した。建築が自然に向き合うときは媚びず対立せず微妙な距離感が大切である。自然石をあしらいながらもモダンな仕上げとしたりした。浴槽も含めすべて自然石の仕上げで、石の取り合いは空の馬目地である。
 (手塚貴晴)

1 階平面 1 / 200